



生活型：低木、落葉樹

分布：本州～九州

形態等：高さ30～90cmになる。細い刺が多く、よく枝分かれする。葉は長さ2～5cmの広卵形で浅く3つに裂けることが多い。縁には重きょ歯があり、裏面は粉をふいたように白い。花期は4～5月、短い枝の先に白い花を上向きに1個つける。

天竜川上流における分布

天竜村水神橋と飯田市JR天竜川橋の2ヶ所で確認した。日当たりのよい林縁部や草地に生育する。



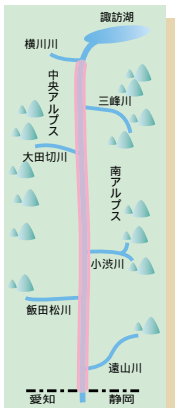
生活型：低木、落葉樹

分布：本州（関東地方以西）四国、九州

形態等：茎は弓状に曲がり、高さ1～1.5mになる。葉は長さ2～4.5cmの狭い披針形で、先は鋭くとがり、縁にきょ歯がある。花期は4月で、白色の小さな花が前年伸びた枝に多数つく。

天竜川上流における分布

飯田市水神橋と駒ヶ根市北の城橋の2地点で確認した。個体数は少ない。駒ヶ根市の確認個体は逸出と考えられる。川岸の岩場などに生育するが、庭や公園にも植えられる。



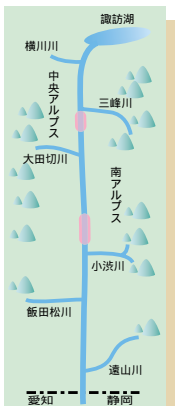
生活型：低木、落葉樹

分布：帰化植物、北アメリカ原産。

形態等：高さ4～6mになる。葉は長さ10～30cmで羽状に分かれ、長楕円形または卵円形の小葉が5～10対ある。花期は6月頃で、暗紫色の花が枝先に穂のようにつき、イタチの尾のように見える。

天竜川上流における分布

全域で確認した。個体数は多い。日当たりのよい砂れき地に群生する。大正時代に砂防用、護岸用として移入され、現在は各地で逸出し群落をつくる。



生活型：多年草、分枝型

分布：本州～九州

形態等：高さ30～60cmになる。葉は羽状複葉。花期は8～10月で、葉のわきに黄色の小さな花をつける。

天竜川上流における分布

中川村飯沼橋、飯島町天王橋と三峰川合流点の3カ所で確認した。分布は局地的で個体数も少ない。日当たりのよい河原や草地など乾燥した場所に生育する、河川特有の植物である。



撮影 EAC



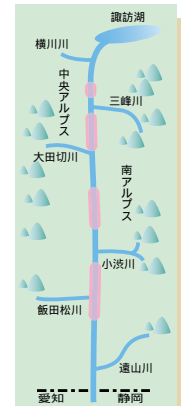
生活型: 高木、落葉樹
分布: 本州(中部地方以西) 四国、九州
形態等: 高さ10~15mになる。幹や枝に枝分かれた刺が多くつく。葉は羽状複葉、小葉は長楕円形で8~12対つく。花期は6月頃、黄緑色の花が総状に垂れ下がる。種子はサポニンを含み、石けんの代用とされた。また、漢方薬の材料としても用いられている。

天竜川上流における分布

松川町台城橋と辰野町新樋橋の2カ所で確認した。日当たりのよい高水敷の草地などに生育する。近年少なくなった。



撮影 今井



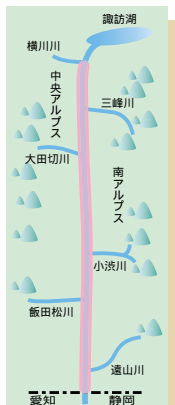
生活型: 小低木
分布: 本州~九州
形態等: 高さ60cmになる草本状の低木。茎は木質状で堅く、地をはうように生長する。葉は4~5対の小葉を持つ羽状複葉。花期は7~9月、花は紅紫色、葉のわきから出て多数つく。

天竜川上流における分布

飯田市から箕輪町にかけて確認した。乾燥した砂れき地や堤防の石を張った場所などに生育する。



撮影 EAC



生活型: 1年草
分布: 北海道~九州
形態等: つる性で、茎は長さ3m以上にも伸び、他の植物などからまっけて生育する。褐色の細い毛が生える。葉は広披針形の小葉が3枚つく。花期は8~9月で、葉柄のわきに淡い紅紫色の小さな花をつける。栽培の大豆は本種を改良したものといわれる。

天竜川上流における分布

全域で確認した。日当たりのよい堤防草地や高水敷の草地などに生育する。



撮影 今井



生活型: 1年草
分布: 本州~九州
形態等: 茎は高さ15~20cmになり、根元から多数枝分かれする。茎には上向きの毛がある。茎の下部の小葉は広い倒卵形で先が凹んでいる。花期は7~9月で、葉の付け根に小型の淡い紅紫色の花をつける。
類似種: ヤハズソウ(61p)

天竜川上流における分布

天竜村から辰野町にかけて確認した。個体数は多い。乾いた砂れき地に群生する。



撮影 今井



生活型：1年草

分布：北海道～南西諸島

形態等：茎は高さ15～20cmになり、根元から多数枝分かれする。茎には下向きの伏した毛がある。小葉は倒卵形で先が丸い。花期は8～9月で、葉の付け根に小型の淡い紅紫色の花をつける。

類似種：マルバヤハズソウ(60p)

天竜川上流における分布

飯田市姑射橋上流から豊丘村芦部川合流にかけて確認した。乾いた砂れき地に群生する。天竜川ではマルバヤハズソウの方が多い。



撮影 EAC

生活型：多年草

分布：本州～九州

形態等：茎は高さ30～40cmになり、両側に幅1～2mmの翼がある。葉は1～3対の小葉を持つ羽状複葉で、葉軸の先は巻きひげになる。花期は5～6月で、葉のわきに紅紫色の花を5～8個つける。



天竜川上流における分布

駒ヶ根市天竜大橋の1カ所で確認した。河川域での確認は珍しい。堤防下のやや湿った草地に生育する。

堤防の草刈りと共存するチョウ

河川の堤防は道路として利用されるなど、その多くは人の管理に委^{ゆだね}られています。また、堤防斜面がコンクリートでない場合は定期的に除草が行われていることはご存じだと思います。人の手が加わることは、堤防に住むチョウたちにとっては都合が悪いと思われがちですが、むしろ除草という行為が生息に役立っているというチョウもいます。ここではその例を紹介したいと思います。

その前に、チョウはどこにいるのでしょうか？チョウは、生まれ育った「食草」(卵からかえった幼虫が食べる植物)の近くにいることが多いのです。そのことを覚えていて下さい。

クロツバメシジミ (シジミチョウ科)

とても小さなシジミチョウの仲間で、翅を開くと真っ黒に見え、小さな尻尾(尾状突起)がついています。成虫は年3回羽化してきます。

全国的に分布は局所的ですが、それは食草のツメレンゲやタイトゴメ(いずれもベンケイソウ科)などの生育地が限られているためです。ツメレンゲは草丈が低く、地にへばりつくように護岸のわずかな土や河川敷内に張り付いています。除草が行われると、ツメレンゲより背の高い草や木は刈り払われますが、この草は難を逃れ^{やぶ}ます。もし定期的な草刈りがなければ、堤防はやがて藪や林となり、太陽の光を失ったツメレンゲは枯れてしまうでしょう。

天竜川本川には今のところこのチョウはいないようです。しかし、太田切川や三峰川には分布していますし、本川でも食草の分布は確認されていますから、将来「移り住んでくる」という夢もかなうかも知れません。



クロツバメシジミと食草のツメレンゲ

ミヤマシジミ (シジミチョウ科)

オスは内側の翅^{はね}がとても鮮やかな青色で、メスはこげ茶色に朱色の縁取りが入ります。全国的には中部地方にだけ分布しており、成虫は年に3回程度羽化します。食草のコマツナギ(マメ科)は馬をつなぐという意味で「駒繋ぎ」という漢字をあてるように茎が強い繊維質でできています。日当たりの良い乾燥した場所を好むため、河原や堤防斜面に多く生えています。幼虫は、食草が一面に生育するところよりもぼつんと離れている株に多く見つかります。



河原のミヤマシジミ（オス）

コマツナギは数十cmの草丈があるために、草刈りで刈り払われますが、茎の基部が残って再び生長します。草刈りによって周辺の背の高い草が無くなることは、コマツナギにとっては都合の良いことになります。

天竜川本川には広く分布していますから、探せばきっと見つかるでしょう。

ジャコウアゲハ（アゲハチョウ科）

暖地系のチョウで県内ではあまり見かけません。オスは全身真っ黒、メスは渋い茶灰色でいずれも長い尻尾をなびかせながら、緩やかに低く飛びます。成虫は5月と7月の年2回羽化します。このチョウの特色は、オスがジャコウ麝香に似た香りを発散することです。



ジャコウアゲハ

食草のウマノスズクサ（ウマノスズクサ科）は春に芽吹くつる性の植物で、独特の臭気があります。そのためチョウの幼虫も臭気を放ち、鳥に食べられないといわれています。堤防や荒地、墓地などでは局所的に見つかります。

草刈りによりつるが切断されますが、再生は早く、すぐに勢いを取り戻します。もし定期的な除草がなければやはり低木類によって被われ、この植物は絶えてしまうでしょう。ただ、草刈りの時期としてはチョウの卵や幼虫が見られる5月下旬～7月上旬と8月上旬～9月中旬には作業をさける必要があります。

天竜川本川には局所的に分布しています。独特の飛び方をする姿はとても印象的です。ぜひ探してみてください。

河川には比較的豊かな植生が残っていることが多いため、「緑の回廊かいろう」とか「ピオトープゾーン」などと呼ばれ注目されています。人にとって安全で親しめる川であってほしいと同時に、そこに住むチョウたちにとっても、生息しやすい多様性をもった姿であってほしいと思います。

（塩原明彦）

ヤマハギ *Lespedeza bicolor*

マメ科



撮影 馬場



生活型：落葉低木

分布：北海道～九州

形態等：高さ1.5～2mになり、細かい枝を多数広げる。葉はやや薄く、小葉は長楕円形、裏にはまばらに短い毛がある。花期は7～9月、紅紫色の花を多数つける。

類似種：ツクシハギ（64p）

天竜川上流における分布

飯田市水神橋と豊丘村芦部川合流の2カ所で確認した。高水敷の日当たりのよい草地に生育する。山地に多く見られる種である。

ツクシハギ *Lespedeza homoloba*

マメ科



撮影 今井



生活型：落葉低木

分布：本州～九州

形態等：高さ2～3mになる。枝は上部でよく分枝する。小葉はやや厚く、表面は無毛、裏面に微小な短毛がある。花期は7～10月、花の側方の花弁は明るい紅紫色で中心部の花弁は淡紅色～白色。

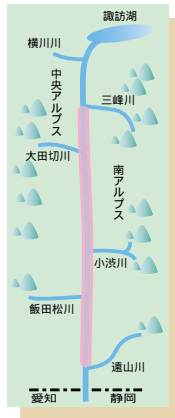
類似種：ヤマハギ（64p）

天竜川上流における分布

泰阜村の2カ所で確認した。県内では南部に分布の中心をもつ種である。日当たりのよい砂れき地に生育する。



生活型：多年草
分布：北海道～九州
形態等：茎は高さ80cmほどになり、根元から株立ちし、紫色を帯びる。葉は3枚の小葉からなり、小葉は狭い長楕円形で先が丸い。茎、葉裏、花に白い伏毛が少しく。花期は8～10月、黄白色～白色で紫色の斑点がある。
類似種：メドハギ..茎は緑色で、葉はカラメドハギより密につき、裏に圧毛がある。



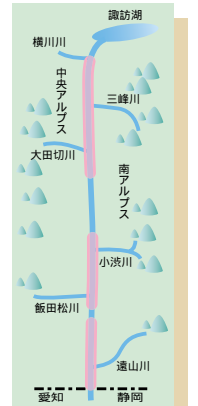
天竜川上流における分布

泰阜村～三峰川合流点にかけて確認した。乾いた砂れき地に生育する、河川環境特有の植物である。

撮影 EAC



撮影 EAC



生活型：多年草
分布：北海道～九州
形態等：つる性で、茎は長さ10mになる。葉は大型の3枚の小葉からなる。花期は7～9月で、花は紅紫色。豆花には褐色の剛毛が密生する。根茎のデンプン質は葛粉となる。漢方では根を「葛根」として利用する。

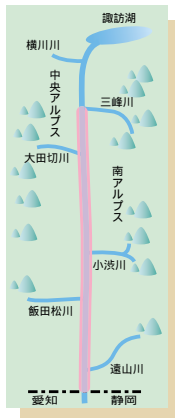
天竜川上流における分布

ほぼ全域で確認した。個体数は多い。日当たりのよい砂れき地や他の植物にからみついで生育する。



撮影 藤原

生活型：1～2年草
分布：帰化植物、中央アジア原産。
形態等：茎は高さ30～120cm。葉は3枚の小葉からなり、ややまばらなきよ歯がある。花期は夏で、白色の花を茎の上部に総状につける。

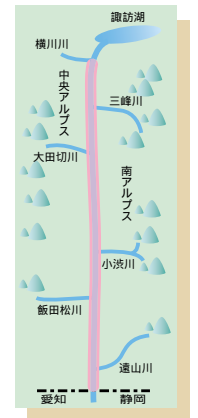


天竜川上流における分布

三峰川合流点より下流のほぼ全域で確認した。個体数は多い。日当たりのよい乾いた砂れき地に生育する。



撮影 EAC



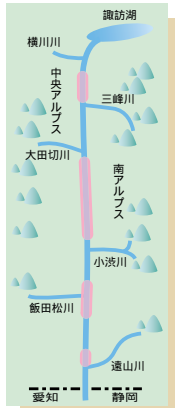
生活型：高木、落葉樹
分布：帰化植物、北アメリカ原産
形態等：高さ15mになる。枝には刺が多い。葉は3～9対の小葉からなり、小葉は長さ2～5cmの楕円形、全体の長さは12～25cm。花期は5～6月、花は白く、房状につき、香りがよい。庭木、街路樹、砂防林として植えられるが、逸出して野生化するものも多い。花には香りの強い蜜が多く、花の時期には養蜂家が木の下に巣箱を置く。

天竜川上流における分布

全域で確認した。個体数は多く、堤防上や日当たりのよい砂れき地などに群生する。



撮影 今井



天竜川上流における分布

遠山川合流点から箕輪町にかけて所々で確認した。

生活型：1年草
 分布：帰化植物、ヨーロッパ-西アジア原産で、国内では主に中部地方以西に見られる。
 形態等：茎は高さ20~40cmになり、ほとんど毛はない。葉は3枚の小葉からなり、先は軽く凹む。花期は5~9月、葉より長い側枝の先に小さい黄色の花が5~20個集まってつく。
 類似種：クスダマツメクサ (67p)



撮影 今井



天竜川上流における分布

下伊那地域に分布はかたよっており、飯田市水神橋より下流のほぼ全域で確認した。日当たりのよい乾いた場所に生育する。

生活型：1年草
 分布：帰化植物、ヨーロッパ原産
 形態等：茎は高さ20~40cm、ほとんど毛はない。葉は3枚の小葉からなり、先は平たいか軽く凹む。花期は春~夏、葉と同長の側枝の先に黄色の小さな花が20~50個集まってつく。
 類似種：コメツツメクサ (67p)

川の植物と花粉症

河原の調査をしているとき、最も困るのは花粉症の発作が始まったときです。くしゃみは止まらず、目はかゆく、頭もぼーっとしてきます。花粉症の有名どころはスギ花粉ですが、河原の植物の中にも一役買っている種類があるのです。

河原で最もつらい季節は6月です。この時期に開花し、花粉症を引き起こす原因は主にイネ科植物で、カモガヤ、クサヨシなどが挙げられます。カモガヤはヨーロッパから牧草として移入された植物で、英名は「オーチャードグラス」です。信州は牧草が多いので、いたるところに逃げ出して生育しています。

夏の間はそれほどひどくありませんが、ツルヨシやヨシ、カナムグラはこの時期に開花します。藪こぎ(草むらの中をかき分けていくこと)をすると、花を揺らして花粉を落とし、葉についていた花粉まで巻き上げることになります。

秋には、再びひどい季節がやってきます。10月頃開花する植物のうち原因と考えられる種類は、ヨモギ、ブタクサなどです。考えてみれば、冬と春以外は花粉症に悩まされていますね。

「花粉症は現代病」とも言われますが、川の近くにに住む人たちから「河原にアカシアの木が増えてから、花粉症にかかる人が多くなった」という声を聞くことがあります。アカシアとは、天竜川ではハリエンジュのことを指し、6月頃に白い花をたくさんつけます。

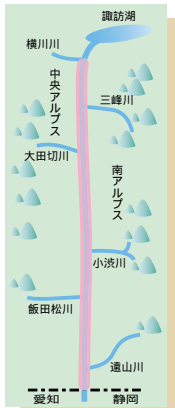
しかし、よく考えてみるとハリエンジュの花粉はハチなどの虫が運び、受粉する花です。花粉症の原因となる植物は基本的に風が花粉を運び、受粉する花と考えられることから、ハリエンジュが原因であるというのは疑問が残ります。先ほどのカモガヤも同じ時期に花を咲かせ、生育する場所も似ていますから、カモガヤとまちがえていたのかも知れません。確かに梢に雪が積もったように花を咲かせたハリエンジュが土手や河原に立ち並ぶ姿は、いかにも花粉を飛ばしそうです。虫が運ぶとはいえ、花粉はちゃんとあるわけですから、大量に花を咲かせることで原因の一つとなっているという可能性もないわけではありませんが...

原因物質の特定は病院で検査できるようになりましたが、なぜ現代になってこの病気に悩む人が増えたのかについてはまだよく分かっていないようです。

いずれにしろ初夏の頃、また憂鬱な季節がやってきます。

(百瀬 剛)

ムラサキツメクサ *Trifolium pratense* マメ科



生活型：多年草

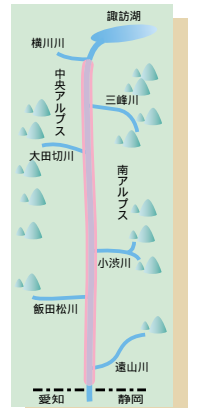
分布：帰化植物、ヨーロッパ原産

形態等：茎は高さ30～60cmになり、褐色の軟毛が生える。葉は3枚の小葉からなり、小葉に淡緑色の斑紋がある。花期は5～10月、花は紅紫色で、丸く集まってつく。牧草として輸入された。

天竜川上流における分布

全域で確認した。個体数は多い。堤防草地や高水敷の草地などに生育する。

ノハラクサフジ *Vicia amurensis* マメ科



生活型：多年草

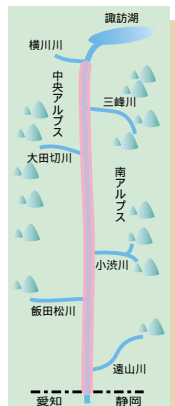
分布：本州、九州

形態等：つる性で、茎は長さ1.0～1.5mになる。小葉は10～16枚でほとんど無毛、葉の先は巻きひげとなる。花期は6～8月、青紫色で濃淡がある。

天竜川上流における分布

全域で確認した。日当たりのよい堤防草地や高水敷の草地などに生育する。

シロツメクサ *Trifolium repens* マメ科



生活型：多年草

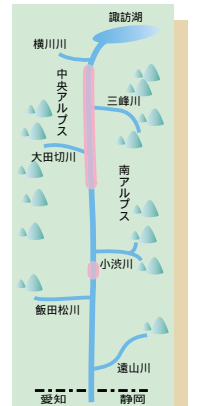
分布：帰化植物、ヨーロッパ原産

形態等：茎は高さ20～30cmになる。葉は3枚の小葉からなり、表面に斑紋がある個体が多い。花期は5～10月、花は白色で、丸く集まってつく。牧草として輸入された。

天竜川上流における分布

全域で確認した。個体数は多い。堤防草地や高水敷の草地などに生育する。

クサフジ *Vicia cracca* マメ科



生活型：多年草

分布：北海道～九州

形態等：つる性で、茎は長さ1.0～1.5mになり、稜線と細毛がある。小葉は18～24枚で、葉の先は巻きひげとなる。花期は5～9月、青紫色の花が片側に偏って多数つく。

天竜川上流における分布

松川町台城橋と駒ヶ根市小鍛冶橋より上流のほぼ全域で確認した。日当たりのよい堤防草地や高水敷の草地に生育する。